

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 18人 国語B 18人

② 算数A 18人 算数B 18人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

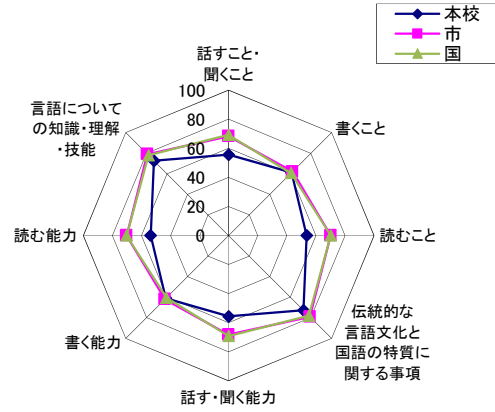
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

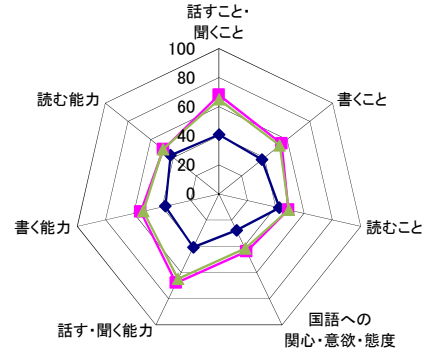
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	55.6	68.2	69.2
	書くこと	61.1	62.0	60.6
	読むこと	53.7	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.7	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	55.6	68.2	69.2
	書く能力	61.1	62.0	60.6
	読む能力	53.7	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	72.7	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	40.7	68.0	64.9
	書くこと	37.8	55.3	53.4
	読むこと	42.6	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	27.8	43.9	41.7
	話す・聞く能力	40.7	68.0	64.9
	書く能力	37.8	55.3	53.4
	読む能力	42.6	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

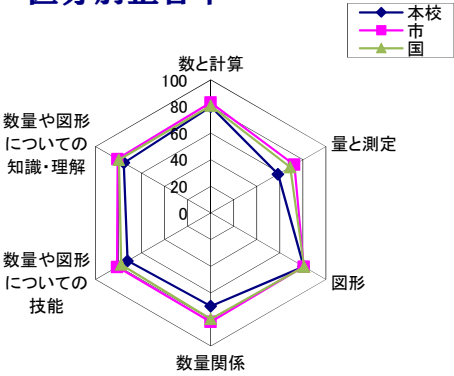
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aにおける本校正答率は55.6%であり、市の平均と比較すると12.6ポイント、全国の平均と比較すると13.6ポイント低い。国語Bにおける本校正答率は40.7%であり、市の平均と比較すると27.3ポイント、全国と比較すると24.2ポイント低い。 ●目的や意図に応じて、話の構成や話の内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す力に課題が見られる。	・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるか計画的に動画等を活用してスピーチを振り返る活動を取り入れたい。その際、話の構成や内容、話し方など振り返る観点を明確にすれば、本問の問いへの理解が進むと考える。また、場に応じた適切な言葉遣いについては、教師が演示することによって、最も適した表現の仕方について理解させていきたい。 ・学級活動や委員会活動等での話し合いにおいて、話し方や聞き方についての基本の型を示したり、それを確認する指導をしっかりと行ったりして、実践を通して、話すこと、聞くことの力の定着を図ってきたい。
書くこと	●国語Aにおける本校正答率は61.1%であり、市、全国平均とほぼ同じである。しかし、国語Bにおける本校正答率は37.8%であり、市の平均と比較すると17.5ポイント、全国と比較すると15.6ポイント低い。 ●目的や意図に応じて、引用して書くことや必要な内容を整理して書くことに課題が見られる。	・自分の考えを明確に伝える力を高めるために、日常的な指導も含め、日記や意見文等の言語活動を多く取り入れていきたい。 ・説得力をもって自分の考えを伝えるために、本や文章のどこを引用したらよいのか、引用の必要性や効果を実感できるよう指導していきたい。そのためには、国語科だけではなく、他教科における調べ学習で意図的、計画的に設定していきたい。
読むこと	●国語Aにおける本校正答率は53.7%であり、市、全国平均と比較すると16.5ポイント低い。国語Bにおける本校正答率は42.6%であり、市、全国の平均と比較すると6.4ポイント低い。 ●目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読んだり、発言の意図をとらえて読んだりすることに課題が見られる。	・調べる目的に応じて、中心となる語や文を捉え、必要な情報を見付けて読むことが出来るよう、国語科や他教科の調べ学習において、定着を図ってきたい。 ・物語の感想を伝えあい、一人一人の感じ方に違いがあることに気づかせたり、互いになぜそのように思ったのか質問したり、自分の考えを確かめたりするような活動を取り入れ、互いの違いを認め合ったうえで、ものの見方や考え方を広げる力を身に付けていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aにおける本校正答率は72.7%であり、市の平均と比較すると6.4ポイント、全国の平均と比較すると5.3ポイント低い。 ●漢字を読むことの正答率は平均して80%であるが、書くことに関しては、70%に満たないものもあり、定着が図れていないことが課題である。	・学習した漢字を文や文章の中で適切に使うことのできる力の定着を図るため、漢字のもつ意味を考えたり、自分の書いた文章を読み直し、漢字が使っているか確認したりする活動を多く取り入れていきたい。 ・漢字を使うことによって自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができることに気づかせ、習った漢字を使って書くという意識を高めていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

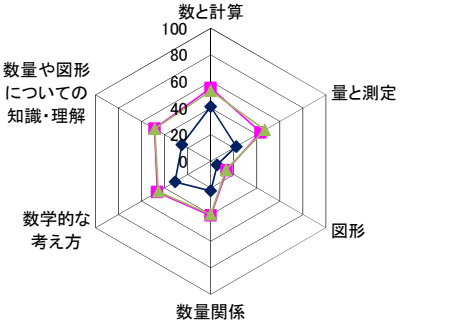
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	79.9	82.9	80.6
	量と測定	58.3	72.5	68.8
	図形	80.6	80.8	81.1
	数量関係	70.0	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	72.2	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	75.4	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	41.1	55.1	52.8
	量と測定	22.2	43.4	47.0
	図形	5.6	13.8	13.2
	数量関係	22.2	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	30.9	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	25.0	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数量の計算問題では、80%を超える正答率のものもあり、基礎的な技能の定着が図られつつあると考える。 ●算数Aにおける本校の正答率は79.9%であり、市の平均と比較すると3ポイント、全国平均と比較すると0.7ポイント低いが、ほぼ同等である。算数Bにおける本校正答率は41.1%であり、市の平均と比較すると14ポイント、全国平均と比較すると11.7ポイント低い。 ●特にB問題では、問題に示された2つの数量関係を一般化して捉え、そのきまり、求め方などを言葉や式を用いて記述することに課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・計算については、毎日の宿題としてプリントを課してきた。今後も基本的な計算問題に触れる場を継続し、確かな力となるようにしていく。 ・小数や分数については、その意味についての理解を深めることができるように、数量関係を図や数直線に表して考えることができるようにする。 ・授業においては、自分の考えを文章化したり、友達に伝えたりする場を多く設定し、思考力を高めていきたい。 ・文章題に対しては、問題場面を数直線などを使い適切に理解させる。計算だけでなく文章を式に表す問題を多く取り入れ定着を図りたい。
量と測定	●算数Aにおける本校正答率は58.3%であり、市の平均と比較すると14.2ポイント、全国平均と比較すると10.5ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は22.2%であり、市の平均と比較すると21.2ポイント、全国平均と比較すると24.8ポイント低い。 ●特に平均に関する問題や任意単位による測定の理解に課題が見られる。	・日常生活や他教科の学習場面で平均を求める際、飛び離れた数値を除いて平均を求めることが適切か考察する活動を取り入れたい。 ・既習の量の比較や測定の方法を想起して、異なる種類でも共通点があることを見出し、総合的に捉えさせたい。
図形	○算数Aにおける本校正答率は80.6%であり、市の平均と比較すると0.2ポイント、全国平均と比較すると0.5ポイント低いが、ほぼ同等である。しかし、算数Bにおける本校正答率は5.6%であり、市の平均と比較すると8.2ポイント、全国平均と比較すると7.6ポイント低い。 ●特にB問題では、図形の性質を生かし、身近なものに置き換え考える問題に課題が見られる。	・図形の性質を理解するために、具体物を用いた活動を増やし、観察や操作を通して、図形の構成要素を実感的に理解させるような指導を行っていききたい。 ・算数の学習だけでなく、他教科の学習や日常生活においても、図形の性質を用いた問題場面を設定し、自分の考えを文章や図で表現し、伝え合う活動を多く取り入れていきたい。
数量関係	●算数Aにおける本校正答率は70%であり、市の平均と比較すると11.9ポイント、全国平均と比較すると9.6ポイント低い。算数Bにおける本校正答率は22.2%であり、市の平均と比較すると18.6ポイント、全国平均と比較すると17.8ポイント低い。 ●日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりする力に課題が見られる。	・割合の学習では、何がもとになっているのかを話し合う活動を十分にとり、比較されている量がどのくらいに当たるのかを数直線で考えさせたり見積もらせたりする活動を行い、基準量と比較量の関係をきちんととらえることができるようにする。また、本問のように、解答が同じでもその判断の理由を言葉や式で表すと、誤答である場合が見られたので、注意して指導していきたい。 ・授業においては、日常生活の問題解決に向けて、児童にとって身近なものに置き換え、学習したことを活用したり、表やグラフから必要な情報を読み取ったりする場面を設け、それを文章で書く活動の場を多く取り入れていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や希望を持っているか」「学んだことを、ほかの学習や生活にいかそうとしているか」などの設問に対する肯定的な回答の割合は、どれも90%を超えており、子どもたちが、意欲的に学校生活を送ったり、将来について考えたりしていることがうかがえる。

○「友達との約束を守っているか」「学校のきまりを守っているか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」などの設問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は100%であり、市、全国の肯定割合を大きく上回っている。

○「家で学校の宿題をしているか」については100%、「学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」の設問には、1時間以上と答えている児童の割合が、全国を上回っていることから、家庭学習の定着が図れていると考えられる。今後は、家庭学習の内容の精選を行い、学力の定着がさらに図れるようにしていきたい。

○「算数は好きか」「算数の学習は大切か」「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考えるか」という設問に対する肯定的な回答の割合は100%であり、算数の学習に関しての意欲が大変高く、できるようになりたい、分かっていたいという意識が高くもち、学習に臨んでいることがわかる。

●ゲームについては、1日に4時間以上使用しているが16.7%、2時間以上3時間未満使用しているが22.2%と全体の半分近くの児童が長時間使用しており、市に比べ非常に多い。家庭で使用についてのルールを決めていると回答した児童も多いが、あまり決めていない、全く決めていないと回答した児童も少なくない。長時間のゲームが健康に及ぼす影響などを児童に伝え、自分で考え、行動に移すことができるようにしていきたい。

●「普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の設問では、2時間～4時間以上と回答した児童が30%近くおり、県に比べ、使用時間が非常に長くなっている。今後、通信機器における書き込みなどを含めた情報モラルの指導をするとともに、家庭にも啓発を行っていきたい。基本的には持たせないこと、やむを得ず持たせる場合は、フィルタリングをかけること、時間を制限すること、内容を確認することなど細かなルールを家庭で設定してもらい、学校と家庭が共通理解のもと指導に当たっていきたい。

●「新聞を読んでいますか」という設問では、61%の児童がほとんど読まないと回答している。世の中のことに対する興味・関心や文字にふれる意義を児童に伝えていきたい。また、学校でも意図的に新聞を読む学習を取り入れ、興味関心を高めていきたい。

●「国語の学習は大切か」という設問に対する肯定的な回答割合は高く、大切である、将来役に立つ学習であるという意識はあるが、国語の学習に関しての意欲があまり高くない現状である。子どもたちが、何のために学習をしているのかその意味をしっかりと理解し、自ら意欲的に学習に取り組むことができるように指導していきたい。特に、文章を書くことに関しては、個人差も多く、長く書くこと、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることなど、一人一人の課題に応じた指導を行っていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
本学年は、家庭学習の習慣化は図れているが、自主学習の内容の充実に課題がある。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	自主学習の内容について、担任間でもう一度話し合う機会をもつ必要がある。また、テストの復習や授業の予習など進めている児童を学級または学校で称賛するような機会を考える。また、強化週間を作ることも必要である。 懇談会等で、保護者への協力依頼も続けたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
B問題（活用）で市や全国より全般的にポイントが低い。まず、A問題（基礎基本）に関わる基礎的な知識や技能の定着が図る必要がある。	宮っ子学カステップアップシートと今までの問題、及び本校独自の朝時間を利用したプリント集を活用を図る。	朝の時間を利用し、問題を解き、全職員で指導に当たる。また、プリント集の内容等適切か、定期的に検討する。